

イノベーションを生み出す力を持った人材の養成

先端学際工学専攻（正式名称：東京大学大学院工学系研究科・先端学際工学専攻）は、先端的科学技術に関する萌芽的・先導的な基礎／応用研究、および、そのような研究そのものに関する研究（Research on Research）について、教育・研究指導を行います。更に、従来型の大学院教育に加えて、社会人に対する再教育としての大学院教育も行っていることを特徴としています。このような大学院教育／研究を通して、先端科学技術分野に関する独創的・創造的な研究者のみならず、広い視野に立つ先進的・国際的な研究者、経営管理者、さらには先端的・学際的な政策立案者の養成を図ることを目的としています。学位は博士(学術)または博士(工学)が授与されます。

先端学際工学専攻が設置された1992年当時は、企業に在籍したまま大学院教育を受けられる機関が今ほど多くなく、その先駆的な役割を果たしてきました。

その後、国際化、高速化、多様化、複雑化など研究開発競争の激化に伴い、社会人再教育の意義が再び見直され、2009年度から、「先端科学技術イノベーターコース」をスタートさせました。これは先端科学技術をベースにイノベーションを生み出す力を持った科学技術人材の養成を目指すもので、先端研という世界的な先端科学技術研究拠点を背景に、世界水準の知識と能力を切磋琢磨しつつ、激化する競争に勝ち抜ける高度な専門技術者としての目的意識やマネジメント能力を身に付けることを念頭においています。

また2010年度からはバリアフリープログラムと環境・エネルギープログラムを立上げ、より体系的に専門性を高められる機会を提供しています。

先端学際工学専攻における、教育・研究体系の構築

- 「各論」と、それらを横断する「基盤的知識」を最適構成させた教育・研究の実践
- 基盤的知識は、理系・文系を問わず幅広い学問領域を含む
- 専門外（または社会活動の中）でのプレゼンテーション能力・討論能力のトレーニングを行う
カリキュラムの導入とリーダーシップのとれる人材の育成 (PPP教育*)

* PPP教育とは、リーダーシップをとれる人材(先導人材)の育成を目指して2005年度より導入されたカリキュラムで、Leadership Performance Presentation Proposalの頭文字をとったものです。

リーダーシップをとれる人材の育成を目指す PPP教育とは？



PPP教育を担当するGeorge Olcott 特任教授

Performance

- リーダーシップを意識させた能動的な研究活動の実践
- プロジェクトをマネジメントできる人材の育成

Presentation

- 「先端科学技術英語」の授業を実施
- 英語によるプレゼンテーション技術と経験の習得

Proposal

- 「プロポーザル(研究企画)」の授業を実施
- 自己の研究に直接関連しないトピックについて、研究企画書を作成・提出

先端学際工学専攻の構造

